

視察研修・研修会等報告書

議席番号 「5 番」 議員名 「桂川いづみ」
いづみ

1	年 月 日	令和6年8月8日（木）・9日（金） 1泊2日
2	場所	新潟県十日町市旭町25番地17
3	視察・研修事項	新潟県「大地の芸術祭」越後妻有アートトリエンナーレ2024
4	面接者	産業観光課 課長 齋木 直様 NPO法人越後妻有里山協働機構 事務局長 原 蜜様
5	視察研修・研修会成果	
新潟県開催の「大地の芸術祭」の視察をさせていただきました。はじめに十日町産業観光課の齋木課長様より十日町の説明を受けました。総人口47,627名世帯数19,394世帯面積は590.39km ² 人口密度は81/km ² 東京からは約200km新潟市からは約100kmの地点に有り広大な広がり、有る標高2,000m級の山岳地帯で毎年の平均積雪は2mを超え1年の3分の1以上が降積雪期間となり長い厳しい気象条件が住民の日常生活や経済活動に大きな影響を与えている地域でありながら、「大地の芸術祭」が9回目27年間続いている地域と言うお話から、はじめは地域の方の理解を得る事は大変な事で最初写真展からはじめ、3年毎に理解を深め9回目に至る経緯のお話を伺いました。十日町市松代に位置する廃校・旧清水小学校を地域社会での芸術活動のドキュメンテーションとアーカイブに注目する施設としアーカイブ活動を実施してき施設や土地を有効的にアーティストによる芸術の表現の場に広げてきたとのお話でした。		
古いものを現代アートで表現する事、国内外からのアーティストによる個性的なアートを如何に多くの方々に発信し知っていただく事が難しく、継続に新規の感性を取り入れて表現するかを、住民の方や、「こへび隊」ボランティアと一体になり継続している事を伺いました。		
新しい発想が今の時代の「映え」にも繋がるとの話や、お洒落な物でないと今の時代には大切との事も原さんは説明してくださいました。		
日常での需要と供給がマッチしているとの事でした。		
発信は来て下さる方がしてくれるとのお話もされていました。		
広い大地で車での移動でないと行けない様なところでも、携帯の位置アプリからすぐ移動路がせたり工夫がされていました。		
気になった点は周りに宿泊施設がないのと、お店等も何もないところなので、妻有のアート施設で食事等を済ませなければならないシステムになって居ることでした。		
管理運営を原さんの組織に任せて見えるので当初始めた頃の協力者の方々も高齢になり世代交代すべきだが担い手不足は深刻な問題とのお話でした。アート事態はインバウンドの影響もあり成り立っているようです。下呂も3回9年は続けられると良いですねとのお話しでした。		